

# 芳野

前

ワキ 紀貫之

シテ 老翁

ツレ 伴ふ樵夫

後

ワキ 前に同じ

シテ 子守明神

ワキ次第

「花の雲路をしるべにて。く。吉野の奥を尋ねん。

詞

「抑是は紀貫之とは我事なり。我いまだ三吉野を見ず候ふ程に。此春思ひ立ち吉野参詣仕り候。

道行

「三吉野の。象の山風長閑にて。く。分け入る影にそなれ行く。松の響も朝立つや。雲も桜も一色の。吉野の山に着きにけり。く。

シテ、ツレ一声

「みよしの。山辺に咲ける桜花。雪かとも見る梢かな。

ツレ

「重き薪を老の身の。

シテ

「花とも知らぬ心かな。

サシ二人

「古里の吉野は花に住みあかで。春を友なる山賤の。

採るや薪のしばくも。あはれんものかと思ひしに。定めなき世の中々に。住めば住まるゝ身なりけり。かくてもいつと限らまし。

歌

「春の山辺に行き暮れて。く。木のもとに立ちよれば。嵐もつらし花もうし。く。

ワキ詞

「いかに是なる山賤。御身は此吉野山に住み給へば。賤しきながら心にくうこそ候へ。然れば此吉野山。何くも花の名所なるべし教へ給へ。」

シテ

「御姿を見奉れば。何とやらん此あたりの人とは見え給はず。若し都より御参詣候ふやらん。」

ワキ

「実によく見給ひたり。是は紀貫之なるが。初めて参詣申して候。」

シテ

「何と紀貫之にて御座候ふとや。」

ワキ

「中々の事。」

シテ

「かしこうぞ長いきして。天が下に隠れもましますさぬ歌人紀貫之を見奉る事の有難さよ。よく／＼思へば是もたゞ。名所に住める故なりけるぞ。唯尋常の山里ならば。歌人もいかでか御入り有るべき。実にや頃しも吉野の花の。ひとへに名所の徳なるぞや。」

ワキ

「実にや勸学院の雀は蒙求を囀るとかや。さしも賤

しき山賤なれども。名所の人とてかくばかり。心  
言葉のやさしさよ。さらば老人此まゝにて。吉野  
の奥のしるべせよ。

シテ

「しるべはあらじ都にても。吉野の花は御覧ずらん。

地

「千本の花に嵐山。音に聞えて皇の。治めし三吉野

や。種とりし外までも。花は吉野の名ぞ高き。実  
にやさしもこそ。厭ふ浮名の嵐山。花の所と成り  
そめし。時の春さへ面白や。く。

ワキ詞

「近頃心ある山賤にて候ふ間。いで貫之歌物語して  
聞かせ候ふべし。

シテ

「さらば承り候はん。

クリ地

「夫れ敷島の国つわざは。天の浮橋の下にして。二  
柱の神代より。起り伝はる道とかや。

ワキサシ

「抑大和島根の内に置きて。百千の君の政を助けし  
より。

地

「明らけき時にはかならず是をおこし。治まれる世

にはしきりに之を集め給へり。

ワキ「実に目に思ひ心に見て。」

地「うつし頭はす言の葉の。直きを先として其くせなきが如しと。歌人も詠吟しけるとかや。」

クセ「難波津の。流は浅くして。底をはかり難く。浅香山の道はまた。狭くして際を知らざりき。水無瀬川の霞のうちには。秋のあはれを忘れ。高円山の風の前。雲なき月を望みつゝ。おどろが下葉を

踏み分けて。道ある世をしらせんと。閨のふすまの冴ゆるにも。藁屋の風をあはれみの。恵みなれや大君の。御心内に動き。詞外に満つとかや。

ワキ「龍田川のもみぢ葉は。」

地「濃きもうすきも錦にて。吉野の山桜は。嶺にも尾にも雲の端の。かゝる詠めは尽きぬ世の。君も人も身をあはせ。心をのべて花衣。野べの葛のはひかゝり。林にしげき木の葉の。天長く地久に。幾

万代の道ならん。

ロンギ地

「実に奥深き三吉野の。花の下道踏み分けて。山の  
あなたのしるべせよ。

シテ、ツレ

「しるべとも。いづく岩根の松の葉の。白きは雲か  
花の雪の。幾代積りて年浪の。帰る方を御覧ぜよ。

地

「帰るやいづく三吉野の。吉野の奥のしるべとて。

二人

「行かんとすれば花盛り。

地

「咲き埋れて。

二人

「吉野山。

地

「出でつる道だにも見えねども。去年のしをりをし  
るべにて。花を分けつくゞりつゝ。さながら雲に子  
守の。神よとて失せにけり。神よとて失せにける

とかや。 (中人)

ワキ歌

「声よりやがて松の風。く。のどかに吹きて夜  
桜の。光りかゝやき音楽の。花に響くぞ有難き。  
く。

後ジテ

「あら有りがたの和歌の人や。誠に発心説法の妙文。せんせいなれや久方の。天よりおこる詠歌の道。

地

「昔に帰る舞歌の例。

シテ

「是ぞ此五節のかなでの神。

地

「左右左右さかゆくや。花の遊楽夜も更けて。月澄み渡り。松風も静かなる。花の梢に天くだる粧ひ。実に目前のめうふうを顕はす。

シテ

「姿も妙なるや。

地

「姿も妙なるや。昔の神女の舞の袖。返す五節の例の。尽きもせず朽ちもせぬ。此金峯の神慮を。見聞くにつけてめでたき。此遊楽の妙文。真如実相の月の夜。明くるや名残なるらん。く。